

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272500927		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム らっこ		
所在地 (電話番号)	〒034-0301 青森県十和田市奥瀬字下川目2-1 (電話) 0176-72-3122		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 11月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	十和田第一病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれ、敷地内には同一法人の他事業所も併設されている。その敷地内には植物や木々、畑もあり1年を通して季節の変化を楽しめるような環境を維持している。また、利用者の散歩コースに観音様があり、癒しにつながっている。ホーム内は、広々としていて憩いの空間にはたくさんの光が入るためとても明るい。利用者に接する職員も、いつも笑顔で優しい雰囲気を持っている。職員のスキルアップに関しても、モチベーションを維持するために研修希望を募り、できるだけ希望に沿うように対応している。そのため、内外研修は活発で、職員のレベルを向上させることで、利用者への支援をより良いものに行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を基に、職員全員で話し合いを持ち、すぐに改善されている。見直すことで新たな気づきがあり、ケアに生かされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や法人幹部ではなく、ホームの職員全員で話し合いを持って自己評価を実施している。日頃、見過ごしてしまうようなケア内容も確認できるきっかけとなった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	老人クラブや町内会長、市の担当者や家族も含め、運営推進会議のメンバーから様々な意見を頂くことで支援の参考にしてている。市の職員には利用者の対応で相談をするなどの協力体制が確立されており、互いに情報の共有ができてている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族とは面会時にできるだけコミュニケーションを持つように関わりを持っており、その中で様々な意見や要望を頂いている。細かい事項も、早期に対応することで大きな問題には至らずに解決できている。その内容に関しては、申し送りなどで職員間でも周知している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の老人クラブの方々が、草取りや畑を耕しに来てくれるなど、積極的に来所し手伝ってくれている。また、地域に広報を配布してホームの理解を得ることや、行事に参加することで地域とのふれあひも多く持つことができている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価を受けて、管理者と職員は、地域に根付いた理念を再度話し合い、皆で決めた理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を読み上げることから一日が始まる。職員全員が話し合っで決めた理念なので、その意味もきちんと理解しており、日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の老人クラブの方々が、畑を耕したり草取りをしに来てくれており、積極的にグループホームに来所して交流している。管理者は、今年度キャラバンメイトになったことで、今後さらに地域に向けて認知症の理解を深めてもらえるようにしていく予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は管理者のみではなく、職員全員で話し合いを持ちながら実施している。その事で、職員にも新しい気づきにつながり日々のケアに生かされている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>老人クラブや町内会長、元民生委員や家族に加え市の担当者も参加し2ヶ月に1回開催している。その都度グループホームの状況報告をし、参加者からは意見や要望が聞かれることでサービス向上の参考にできている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者への対応で判断に困った時など、市の担当者に連絡をしてアドバイスをもらうなど、グループホームの実態を知ってもらいながら情報の共有をしている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在まで制度を利用した利用者はいなかった。しかし今後、制度が必要な方が入居する可能性もあるため、毎年外部で行われる研修に参加して知識を深めている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止マニュアルを作成している。職員は、毎年外部研修に参加しており、参加した職員から他の職員へ伝達研修をしている。日々のケアにおいても、虐待という誤解を招かないように互いに気にかけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関して説明し、見学していただいた上で納得してもらい契約を交わしている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理は、利用者ごとに小遣い帳の作成をしている。利用者の家族の面会は月1回以上必ずあるので、使用状況は面会時に確認してもらっている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今まで問題になるような苦情や意見はない。日常的に、特に面会時に家族と会話を持つことで要望などを確認している。そして、その内容は職員間の申し送りで関係者に周知している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の方針で、定期的な人事異動はしていない。法人内他事業所の人員調整などで異動が余儀なくされる場合もあり、その時は、職員も利用者も慣れるまでに少々時間はかかりながらも周囲の協力で大きなトラブルもなく対応できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は事前に職員から何の研修に参加したいかの意向を確認しており、できるだけ希望に沿うように配慮している。また、法人内の研修も活発に行われている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市、その他の研修会等へ参加し、他グループホームと交流を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なるべく馴染みの物を持参してもらうように入居時から説明している。その上で、グループホームでの生活に慣れていただけるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には、畑作業の仕方や漬物の漬け方、調理方法などを教わることも多い。人生の先輩として学べることは学び、支援する時は支援することで支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人から意向を確認しているが、本人から確認できない場合もあるため、本人だけでなく、家族からも確認しながら日々のケアに対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族とは、随時コミュニケーションを図るようにしており、その情報を職員間でも話し合った上で介護計画に反映させている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には4ヶ月に1回ケアプランの見直しをしている。その際には、本人や家族の意向も確認し関係職員と検討している。その他、身体状況や精神状態に大きな変化があった場合は、その都度見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人別事業所が敷地内にあり、夜間や緊急時は応援体制を確立している。また、病院受診時などにも協力をしてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診には家族にも協力をしてもらって対応している。その他、緊急受診には家族だけでなくグループホーム職員も協力し、病状が悪化することがないように対応している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時の重要事項説明書にも記載し、家族にも必要に応じてそのつど説明しているが、終末期の対応は、グループホームで対応できる事とできない事を話し理解を得ている。その中で、関係者とも話し合いをしながら皆で終末期に向けた方向性を確認している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々のプライバシーには配慮した対応をしている。個人情報の記録などは事務室にて管理し、外部に出ることがないように対応をしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居期間が長くなればなるほどにADL(日常生活動作)の低下があり、個々のペースに合わせながらの共同生活が難しくなりつつある。しかし、その中でも利用者者に負担をかけないように対応するよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の力に合わせて、できる家事は手伝ってもらっている。その中で、食事の準備や片付けなどは積極的に手伝ってくれる利用者もあり、テーブルを囲みながら職員とのコミュニケーションの場になっている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週2回の入浴曜日は決めているが、拒否する利用者もあり、その時は曜日を変更するなど個別に臨機応変に対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者個々に、できることを分担することで役割を持っている。片付けや掃除、食材の買出しや畑仕事などそれぞれに楽しみを持ちながら生活を送っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者3名ずつの小グループを作り、定期的に担当職員と相談し、外出の機会を持っている。その他、地域の行事、祭りなどは、個別に希望を確認し対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年外部研修に参加し、研修を重ねることで内部に新しい情報を持ち帰っている。その後は、職員にも伝達研修で周知し、日々のケアに生かしている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所内すべてに鍵をかけていない。徘徊などの対応が困難なときもあったが、鍵をかけずに見守り体制をきちんとすることで対応ができています。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練を行っている。何かあった時、いつでも対応ができるように訓練を繰り返している。また、地域の方々にも広報誌を通じて協力を求めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成しているが、必要に応じて法人内の管理栄養士にも相談しアドバイスをもらっている。食事量や水分摂取量も毎日確認している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザや食中毒をはじめ、感染症のマニュアルを作成しており職員間では理解している。インフルエンザの季節は、来客や家族など、外から来る方には手洗いやうがい、マスク使用などを協力していただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者で集う憩いのスペースが2箇所あり、食事用スペースは椅子にテーブルで、くつろぎ用はソファがゆったりと設置されている。そして、全体に開放感があり、そのスペースには季節の花などを飾ることで四季を通した楽しみがある。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットとタンス以外は、利用者個々に持ち込んでいただいているためそれぞれに工夫し過ごしやすい空間になっている。</p>		

 は、重点項目。